

## 願いを明確にした支援が、児童生徒の成長につながる

【尾張地区の小学校における実践】

日々の授業では、学習規律の定着を図るための指導と、一人一人のよさを伸ばすための指導の両面を意識し、働きかけることを大切にしています。児童理解の方法を工夫し、学び合いを重視した授業づくりに取り組んでいます。

### 教育的愛情に根差した「児童理解」

#### ○ 日常的な児童理解

- ・毎日の言葉掛けから【表情、反応等】
- ・児童同士の関わり方から【態度、会話等】

#### ○ 児童の背景を把握した児童理解

- ・保護者の願い、家庭環境から【保護者の願い、家族構成、習い事等】

#### ○ 多面的な児童理解

- ・アンケートや学級経営チェックリストから
- ・他の教師やSC等の情報から

#### 学級経営チェックリストの活用（一部抜粋）

○毎月、「授業づくり」「学習規律」「児童理解」の観点で実施

項目	チェック内容	
一人一人の	声を掛けても返事がなく、話すことが少なくなった。	レ
子供のサイン	紛失物が多くなった。持ち物に落書きがある。	
集団の中での	いつも一人で過ごすことの多い児童がいる。	
サイン	子供同士の会話で、言葉がきつくなっている。	レ
記録	座席表を作成し、児童の様子を記入している。	○
	次年度に向けて学級編成ファイルに児童の様子を入力している。	



中学校教師を招き、小学校で授業研究会を開催。小中学校教師で学び合っています。

「レ点」等がある場合  
教務主任や管理職が  
①:担任と面談  
②:教室で確認

チーム学校で「児童理解」

理解の深まり・広がり

基盤となる「学習規律」の確立・継続

### 「学び合い」を重視した授業づくり — 教師の温かな眼差しと言葉で、児童・学級を育てる —

#### 1 児童理解から願いをもつ

例) 4年算数科「見積もりを使って」の授業【学習指導案より抜粋】

##### ①【H男を理解する・捉える】

- ・国語の読み取りは苦手である。
- ・算数の思考する問題が得意である。
- ・他者からの承認欲求が強い。
- ・意見は伝えられる。友達の意見を受け入れることが難しい。

##### ②【担任の願い】

- ・友達との関わりの中で、自己肯定感を高め、実感させたい。

##### ③【保護者の願い】

- ・学校で社会性を育ててほしい。
- ・友達との関わり方を学んでほしい。

##### ④【H男への支援の方向性】

- ・学び合いの場面で、友達と伝え合うことのよさを実感させ、よりよい人間関係を構築させたい。

願いの実現へ

自己有用感・自己肯定感の高まり

新たな児童理解

#### 2 児童の姿を見通し、支援の具体化を図る

- ・班編成の工夫 → 4人班。活動が自主的に進められるように編成
  - ・遊具の絵カードや公園全体のイラストを用意  
→ 意欲の喚起。イメージをもたせる。→ 学び合いの充実へ
  - ・視点をもった机間指導  
→ 自主的に学び合いができているかどうかを視点とする。
- <願うH男の姿> ・友達の考えに少しでも耳を傾ける姿  
・友達と協力する姿

授業へ

#### 3 授業中・授業後の言葉掛けを大切にする

##### 授業中のH男

公園に置きたい遊具の話合い活動が始まると、H男は友達との活動に加わず、一人で活動を進めてしまっていた。

##### 実際の支援

- ・H男の席に行き「みんなの話を聞こうね」と言葉掛けをする。
- ・他の班の机間指導中も、H男とその班の様子を見守る。
- ・言葉掛けの後、班の友達と協力できた姿を認め、褒める。

##### H男のノートから

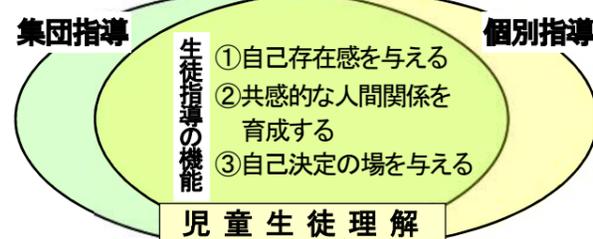
自分の意見をみんなに伝えたら みんなができるようになってうれしかった。

## 児童生徒理解を基盤とし、学習指導と生徒指導を一体化した授業づくり

学校で、児童生徒の生活の中心となるのが授業です。授業には、確かな学力の育成を目指す「学習指導」と、個性の伸長と社会的資質や行動力の育成を目指す「生徒指導」という二つのねらいがあります。

児童生徒をよりよく理解することを基盤として、計画的に学習指導と生徒指導を一体化していくことが大切です。

### 学習指導と生徒指導を一体化した授業



本リーフでは、左記図の具現化を目指し、「児童生徒理解を基盤とし、学習指導と生徒指導を一体化した授業づくり」のポイントを生徒指導の側面から紹介します。



### 児童生徒理解とは？

～児童生徒に寄り添い、一人一人のよさを伸ばし続けること～



「児童生徒理解」とは、児童生徒に寄り添い、個々の特長や傾向などを把握し、理解することです。理解が深まれば、一人一人の活躍や人間的成長への願いが生まれ、授業での支援や指導が具体的になります。

先入観や一面的・表面的な理解にとどまらないよう留意し、「この子のよさは?」「この子を伸ばすには?」と問い続け、多くの目で多面的に理解しようとする姿勢を大切にしましょう。

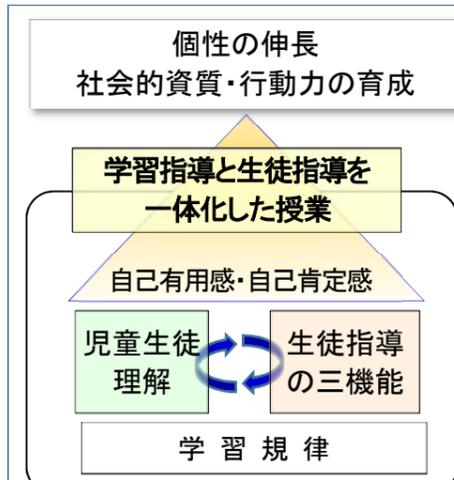
### 学習指導と生徒指導を一体化した授業づくりとは？

～「生徒指導の三つの機能」を生かし、自己有用感・自己肯定感を高める授業～

「学習指導と生徒指導を一体化した授業づくり」とは、確かな学力を身に付けるとともに、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指し、楽しく分かる授業、一人一人が活躍できる授業づくりに努めることです。

例えば、実際の授業で自分の知識や経験が、仲間の学習に役立ったと感じた児童生徒は、自己有用感を感じます。

こうした場面を意図して用意した教師が、その子のよさを認め、褒め、価値づける言葉を掛けることで、その子は自分のよさを自覚し、自己肯定感を高めることができるでしょう。



児童生徒理解を深めるためのポイント（例）

**理解の視点** ・性格的な特徴 ・興味 ・交友関係 ・行動傾向  
 ・意志の強さ ・進路希望 ・生育歴 ・家庭環境 など

多くの教職員や保護者と情報交換をしましょう

- ・学年の教師、教科担任
- ・養護教諭
- ・部活動顧問
- ・スクールカウンセラー
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・異校（園）種の職員
- ・保護者
- など

客観的事実を捉える

- ・休み時間に、〇〇することが多い。
- ・〇〇の分野の本をよく読んでいる。
- ・友達の前で自分の考えを話せるようになる。

一面的、表面的に捉えない

- ・多面的、多角的な視点で捉える。
- ・言動を以前と現在とで比較する。
- ・内面を共感的に理解しようとする。

事実の記録・蓄積をもとに、願い・支援を具体化した授業へ

児童生徒の記録（例）

<b>7 愛知 A子</b> ・委員会……図書委員会 委員長 ・係活動……保健係 ・部活動……金管バンド部 ・得意教科…国語、社会、音楽 ・〇〇〇……■■■		4/20	委員会活動に前向き。委員長に初めて立候補。
		5/25	委員会で自分の考えを譲らず、決めてしまう。
		6/8	歴史の本をよく読み、知識を豊かにしている。
		7/10	知識の豊富さを生かした。友達の考えを聞くことは自分にプラスになると感じさせられた。
		9/20	6月と比べ、友達の意見を受け止められる。

成長の記録を書き加え、理解を深めたい。

・係活動の仕事にも、より前向きな姿勢で取り組めるように成長させたい。

・グループ活動でまとめ役を任せたらどうか？  
 ・前学年で経験はあるのか？

・自分の考えを発表できるようになったが、自分の考えを押し付けたり、安易に多数決で決めたりすることが気になる。  
 ・話し合うことの大切さを感じさせたい。

・A子と対話をしたら、歴史上の様々な人物のエピソードをよく知っていることが分かった。  
 ・歴史の授業で活躍させたい。

自分のよさを自覚させ、「自己理解」へとつなげたい。

先入観をもったり、一面的、表面的に捉えたりしないようにしたい。  
 成長の過程を確認し、この子のよさを更に伸ばすことを大切にしたい。

集団の中で「自己有用感」を味わわせることで、「自己肯定感」を高める

生徒指導の三つの機能を生かした学習指導の実際（例）

【元寇後・恩賞なし】御家人の行動を予想しよう



七月十日

一人一人の努力・成長を認める言葉掛けをしましょう

- 【発言の後で】
- ・「Aさんは、新しい資料を紹介してくれました。歴史に詳しいね」
  - ・「Bさん（発言が少ない子）は、自分の考えをみんなに伝えられたね」
  - ・「Eさんは、みんなと違う考えをしっかりと発表できました」
  - ・「Fさんは、Eさんの考えを聞いて、考え直したんだね」
  - ・「Gさん、迷ってもいいんだよ。はっきりしたら教えてね」
- 【話し合いの後で】
- ・「Aさん、Eさんの発言をきっかけに話し合いが深まりました」
  - ・（学級全体へ）「自分と異なる意見をしっかりと受け止められました」

【授業後のA子の振り返り（ノート）】  
 Eさんの意見を聞き、反抗した御家人ばかりではないかもしれないと思いました。話し合うといろいろな意見が聞けて、いいなと思いました。  
 【担任から】友達の意見を聞くことで、自分の考えが広がりますね。

ネームプレートを活用しましょう

- ・教師が、笑顔でうなずきながら発言を聞き、丁寧に板書しネームプレートを貼ることで、子供は大切にされていると感じます。
- ・指名だけではなく、友達の考えに近い所にネームプレートを貼らせることは、「考えを明確にする」「自分の考えを見直す」「自分の考えに自信をもつ」などの点で、効果的です。



子供は、教師の温かな言葉掛けから、他者への関わり方を学んでいる。教師はこのことを自覚し、言葉を選びたい。

◆ペア学習◆  
 話す・聞く、教え合うなどの活動を繰り返し、自信をもたせましょう

- ・「考えを伝える」「うなずきながら聞く」「質問する」など、望ましい態度や基礎的なスキルを身に付けさせ、自信をもたせましょう。
- ・友達の考えを尊重し、傾聴する態度を身に付けさせましょう。

◆グループ学習◆  
 発達段階に応じて、自主的な態度やスキルを身に付けさせましょう

- ・ペア学習で身に付けた力を向上させましょう。
- ・言葉に詰まった子への言葉掛けの仕方、話題を広げる質問の仕方などを、具体例を示し指導しましょう。

◆まとめ学習◆  
 個々のよさを生かし合う場をつくりましょう

- ・イラストが上手な子、写真の加工が得意な子など、個々のよさを発揮させましょう。
- ・活動を通して、友達のよさを知る機会、自分のよさに気付く機会としましょう。

◆発表学習◆  
 互いのよさや成長を認め合う場をつくりましょう

- ・「元気な声でよかったよ」「分かりやすかったよ」「しっかり調べているね」など、その子のよさや努力した過程を互いに認め合ひましょう。